

オペラ《アルフレッド王》WoO14  
—作曲から初演まで（1849～1851年）の経緯—

倉 脇 雅 子\*

*König Alfred* WoO14:  
Circumstances leading to its composition and premiere (1849-1851)

KURAWAKI Masako

Abstract

The opera *König Alfred* WoO14 (1848-49) (hereafter *Alfred*) was written by Joachim Raff (1822-88). The study of Raff has been mainly of his symphonies. The question then arises about his work on other genre, namely opera. The purpose of this paper is to reveal details leading to the completion of the opera and its first performance.

The following results were obtained. First, as for the postponement of the opera, there was the effect of the Revolutions of 1848, and the popularity of the theme, “Alfred” markedly waned as well. Secondly, the revision of the opera by Raff has close ties with three important styles, namely Schumann, Meyerbeer and Wagner. Thirdly, Raff owes his premiere (1851) to Liszt in many ways, and moreover, I could say that one of the other reason why the premiere was successfully carried out is because there was understanding for such new operas in Weimar. These results lead to the conclusion that *Alfred*, from the viewpoint of its musical contents as well as of the historical context, reflects the turning point of the times.

Keywords : Joachim Raff, *König Alfred*, the Revolutions of 1848, revision, Franz Liszt

1. はじめに

ヨアヒム・ラフ (Joachim Raff, 1822-1882) は、19世紀中葉のドイツで活躍した作曲家である。彼は、ヴィーン楽友協会主催のコンクールで第1位を受賞した (Müller-Reuter 1909: 380) 交響曲第1番《祖国に An Das Vaterland》Op.96 (1861年作曲) をはじめとして300曲以上の作品<sup>1</sup>を残したが、没後は忘れられた作曲家の一人であった。

しかしながら、1990年代からは、初版による選集の出版が始まり、レパートリーにも取り上げられるようになった (Bayreuther 2005: 1192)。このような中、シュタインベックやヴィーガントはラフの交響曲研究において再評価を行っている (Steinbeck 1997; Wiegandt:1997)。これは、現在知られていない作曲家を含めた19世紀半ばのドイツ語圏における管弦楽作品の再考<sup>2</sup> (Kirby 1995; Grotjahn 1998) が行われた時期とも重なる。これらの研究は19世紀半ばの音楽活動をより詳細にみようとするものであり、本研究の意義もこの一連の研究に沿うものとする。

これまでのラフ研究では、標題交響曲が多く取り上げられてきたが、他ジャンルの研究も進められることが必要である。そこで本研究では、オペラ《アルフレッド王 *König Alfred*》WoO14<sup>3</sup> (1848～1849年作曲) (以下、《ア

---

キーワード：ヨアヒム・ラフ、《アルフレッド王》、1848年革命、改訂、フランツ・リスト

\*平成28年度生 比較社会文化学専攻

ルフレッド王》)を対象とする。

ラフのオペラ(表1参照)を扱う先行研究は、現在のところ見当たらないが、伝記(Raff H. 1925; Marty 2014)に《アルフレッド王》に関する記述がある。また、楽譜については、《アルフレッド王》は現在まで未出版であり、スコアとパート譜の手稿譜が、ヴァイマル・フランツ・リスト音楽大学(Hochschule für Musik Franz Liszt Weimar, 1872年設立)のアーカイヴに保存されている。本論では、この《アルフレッド王》全4幕のスコア及びパート譜[D-WRha DNT 363]、バイエルン州立図書館所蔵、《アルフレッド王》のリブレット(1851)[Slg. Her 2032]、*Die Musik*誌「フランツ・リストとヨアヒム・ラフ—書簡集—」(1901; 1902)、テューリンゲン州立中央図書館アーカイヴ所蔵、ヴァイマル宮廷劇場の劇場広告[A 10419]を中心的な資料として扱う。そして、《アルフレッド王》の作曲当時から初演まで(1849~1851年)の経緯を明らかにすることを目的とする。

## 2. 《アルフレッド王》について

### 2. 1. 作品について (Schäfer 1888: 127; Thomas 2011: 177)

《アルフレッド王》は、「大英雄オペラ (Große heroische Oper)」の副題が付されている。

リブレットは、ゴットホルト・ローガウ (Gotthold Logau, 1821-1877)<sup>4</sup>による。そして作曲は、1848年9月から1849年4月の間にシュトゥットガルトで行われた。

主な配役は、アルフレッド王 (Bs)、エディッタ (アルフレッドの妹、S)、エドマンド (アングロ・サクソンの隊長、T)、オズリク (リンカンの伯爵、Bs)、グスルム (ノルマン王、Bs)、グニルデ (ノルマン王の娘、S)。

<i>König Alfred, Große heroische Oper in 4 Aufzügen</i> WoO14	
リブレット	ゴットホルト・ローガウ
作曲	1848年~1849年、シュトゥットガルト
初演	1851年3月9日ヴァイマル宮廷劇場、ラフ指揮
出版	未出版
<i>Samson, Musikalisches Trauerspiel</i> WoO20	
リブレット	ラフ、1851年~1852年、ヴァイマル
作曲	1853年~1857年、ヴァイマルとヴィースバーデン
初演	未発表
出版	未出版
<i>Die Parole, Oper in 3 Aufzügen</i> WoO29	
リブレット	ラフ、1867年、ヴィースバーデン
初演	未発表
作曲	1868年、ヴィースバーデン
出版	スコア未出版、リブレットは、シェレンベルク社
<i>Dame Kobold, Komische Oper in 3 Akten</i> Op.154	
献呈	ザクセン=ヴァイマル=アイゼナハ大公妃ゾフィーに献呈
リブレット	ポール・レーバー
作曲	1869年、ヴィースバーデン
出版	1870年、序曲、歌とピアノ用のパート譜は、ポーテ・ウント・ボック社スコアは未出版 1870年、リブレットは、シェレンベルク社
初演	1870年4月9日
<i>Benedetto Marcello, Lyrische Oper in 3 Akten</i> WoO46	
リブレット	ラフ、1875年、ヴィースバーデン
作曲	1877年、ヴィースバーデンと1878年、フランクフルト
出版	1998年に序曲、2002年にスコアが、各々ノルトシュテルン社
初演	2002年に序曲の初演、オペラ初演は行われず
<i>Die Eifersüchtigen, Komische Oper in 3 Akten</i> WoO54	
リブレット	ラフ、1880年8月フランクフルト
作曲	1881年~1882年、フランクフルト
出版	2010年に序曲が、ノルトシュテルン社、スコア未出版

表1. ラフのオペラ作品 (Albert Schäfer, *Chronologisch-systematisches Verzeichnis der Werke Joachim Raff's*, (Tutzing: Hans Schneider, 1888) に基づいて倉脇作成)

オーケストラは、二管編成に加えて、チューバ、ティンパニ、トライアングル、シンバル、バス・ドラム、スネア・ドラム、弦楽5部。

構成は、序曲、第1幕（6場）、第2幕（5場）、第3幕（5場）、第4幕（2場）。

改訂は、1850年、1851年、1852年（初演後）に各々ヴァイマルで行なわれた。

編曲は、ピアノ用編曲<sup>5</sup>が出版されている。

初演は、1851年3月9日、ヴァイマル宮廷劇場にてラフの指揮による。

## 2. 2. ローガウによる《アルフレッド王》リブレットのあらすじ (Logau 1851)

時代は878年<sup>6</sup>。第1幕は、サマセット、トーン川の内にいるアスルニー島の森の中、ノルマン軍の攻撃から逃亡中のアングロ・サクソン軍の陣営。家臣のエドモンドはエディッタに心を寄せているが、恋敵であるオズリク伯爵が謀反の計画を企てていることを知る。第2幕、アルフレッド王のテントの中。エドモンドはアルフレッド王にオズリクの謀反を告発するが、アルフレッド王がオズリクに相談したため、逆にエドモンドは捕らえられてしまう。第3幕、ノルマン軍によって占領されたチップナム城。年老いたハーブ弾きに変装して敵陣の宴会に潜入したアルフレッド王は、そこにオズリクがいるのを見て驚く。宴席でグスルム王の命令によりアルフレッド王は祖国への歌を歌う。グスルムの娘、グニルデはオズリクの態度に不信感を抱いてハーブ弾き（アルフレッド王）に注意を促す。アルフレッド王はグニルデに感謝の印として指輪を渡す。第4幕、アスルニーの陣営。勝利したアングロ・サクソン軍が帰還する。アルフレッド王は、エドモンドにかけた疑いを謝罪する。グニルデには与えた指輪からハーブ弾きが自分であることを証す。ノルマン人は解放されオズリクは海外追放となり、アングロ・サクソン軍の愛国的な合唱で幕を閉じる。

## 3. 《アルフレッド王》初演までの経緯

### 3. 1. オペラへの関心

《アルフレッド王》に着手した1848年までの作曲状況を、ラフの第一作となる《セレナーデ Sérénade》Op.1 (1843年出版) からみると、その間に52作品がある（作品番号のないものを含める）(Schäfer 1888)。内訳は、ピアノ曲が45曲、リートが5曲、ピアノとチェロの（あるいはヴァイオリン）のためのデュオが1曲、そして詩篇121番 WoO8 (1848年作曲) であり (Ibid.)、《アルフレッド王》はラフの作曲活動初期の大作といえる。

ピアノ作品において、オペラに基づく作品は12曲あり<sup>7</sup> (Ibid.)、他作曲家のオペラを用いた作品がこの時期に多くみられる。また、オペラがもたらす影響について、ラフは後に次のように述べている。

オペラは、あらゆる人にとって、公開される音楽における主要な楽しみになった。そして、同時に新しい社交界のサロンの中でどのような類の音楽が演奏されるかということの方向性に影響を与えた<sup>8</sup> (Raff 1854: 50)。

ラフは、作曲家が有名な「オペラのモチーフ」を用いるのは、演奏家の卓越した技量を聴衆がより集中して聴くことができるからだと述べる (Raff 1854: 51)。そして、「オペラによってヴィルトゥオーソ様式が、貴族と裕福なブルジョアのサロンと中産階級の音楽愛好家の応接室に忍び込む」と述べる (Ibid.)。ここから、上述のラフの考えは、オペラ作品には劇場の内側と外側の受容があり、その両者には相互関係が生じることを指摘するものと捉えられる。

### 3. 2. リブレットについて

《アルフレッド王》のリブレットの作者であるローガウは、シュトゥットガルトにて、学問と芸術のための協会「ベルクヴェルク Bergwerk」を設立するなどの活動をしていたことから（註3参照）、シュトゥットガルトでラフとローガウの交流があったと考えられる。またラフは1848年にローガウの二つの詩に曲付けを行い、彼に作品を献呈している<sup>9</sup>。

リブレットの完成時期は、現在不明である。1851年にヴァイマル王宮の印刷所で刷られたリブレット [Sig. Her 2032] は全体で32頁あり、全4幕のリブレットと、1851年2月16日、ヴァイマル宮廷劇場における《アルフレッド王》初演の劇場広告が掲載されている（しかし、この公演は延期となり、初演は1851年3月9日である [A10419/38/95]）。

### 3.3. 初演までの経緯

#### 3.3.1. シュトゥットガルトとドレスデン

《アルフレッド王》が完成した後、ラフは、シュトゥットガルト宮廷劇場の楽長であるペーター・リントパイントナー (Peter Joseph von Lindpaintner, 1791-1856) に初演を依頼したが不首尾に終わった (Raff H. 1925: 64)。このため彼は、ドレスデン宮廷楽長であるカール・ライシガー (Carl Gottlieb Reissiger, 1798-1859) に初演の打診を行った。しかし、ライシガーの返信 (1849年5月16日付) にはドレスデンの革命による被害が記されていた<sup>10</sup> (Erismann 1987: 25)。

今日しか、あなたのスコアが届いたことをお知らせすることができません。私たちは恐ろしい日々によって弱ってしまい、打ちひしがれています。ドレスデンは壊滅的であり、我々芸術家もそうです。私たちの素晴らしいオペラ劇場は、その中に華麗な装飾と衣装が保管されていますが廃墟と化しています。昨日、歌手と俳優の契約を解約しました。…ドレスデンの惨事と政治的な激昂において、王はまだ楽しむことを考えることはできないのです。… (Erismann 1987: 25)

初演の見通しが立たない中、1849年5月の終わりに、ラフはリスト (Franz Liszt, 1811-1886) に《アルフレッド王》について評価を尋ねている。これに対して1849年6月6日付の手紙でリストは、ヴァイマル宮廷劇場の総監督であるフェルディナント・フォン・ツィーゲザール<sup>11</sup> (Ferdinand von Ziegeler, 1812-1854) に《アルフレッド王》の上演を推薦するための最大限の助力を約束しているもの (Raff H. 1901: 285)、7月8日付の返信には上演に関する懸念が以下のように記されている。

…このオペラは多くの効果的なものを含んでいて、大部分、現在に相応しい劇的な様式で書かれています。とても輝かしい楽器の扱いがあり、入念に仕上げられています（ここかしこで合唱にやや冗長で長すぎるところがあります）。要するに、あなたはこの曲でご自身に十分に満足してもかまわないのです。しかし、その結果が実り多く、あなたにとって満足いくものとなるかは疑問です。これはなぜでしょうか？主にドイツの歌劇場の状況にあります。それはすでに何年も前から作曲家の意気を沮喪させ、停滞させずにはいらなかったものです。特に英雄オペラは、ドイツでは作曲家にとってよい見通しはほんのわずかしき期待できません。… (Raff H. 1901: 286)

リストは英雄オペラの将来性についてふれている。これについて「アルフレッド王」を題材とするオペラの上演をみると、19世紀初めから半ばにかけて、イタリアとドイツを中心に多くの作品が初演されている<sup>12</sup> (ウォラック；ウエスト1996: 37)。この内訳は、1815年から1851年までに14作品が初演されたのに対して、1858年から1938年までは6作品となっており、19世紀半ばを境目としてこのオペラの上演回数が減っていることがわかる。

#### 3.3.2. ヴァイマルでの初演に向けて

ラフはその後、主に経済状況の困難から、1849年の9月以降ハンブルクに移り、作曲活動を休止して、ユーリウス・シューベルト (Julius Schuberth, 1804-1875) の楽譜出版社で働いた。またバート・アイルゼンに赴いてリストの手伝いを行っていたが、1850年にヴァイマルに拠点を移して音楽活動を再開することができた (Raff H. 1925: 68-81)。リストはヴァイマル宮廷楽長を1848年から1858年まで務めており、ラフはリストの助手として、また彼のサークルの一員として活動するなど (Ibid.: 130)、交友関係を広げていった<sup>13</sup>。

1850年2月のクニグンデ・ハインリヒ (Kunigunde Heinrich)<sup>14</sup>に宛てたラフの手紙には、リストが宮廷演

奏会のなかでラフと《アルフレッド王》を紹介する計画について述べられている。リストは、《アルフレッド王》のピアノ用スコアからホルン独奏をもつカノンを取り出して作曲し、それにラフが追加の作曲と清書を行った (Raff H. 1901: 380)。これは、作品目録 (Schäfer 1888: 127) から、《第三幕のシーンとフィナーレ Scene und Finale des dritten Aktes》と考えられる。

この演奏会は成功し、大公妃マリーア・パヴロヴナ (Maria Pavlovna, 1786-1859)<sup>15</sup>から賛辞が贈られた。リストはラフのことを、大公カール・フリードリッヒ (Karl Friedrich von Sachsen-Weimar-Eisenach, 1783-1853)<sup>16</sup>に紹介し、ヴィトゲンシュタイン侯爵夫人<sup>17</sup>とともに、ラフと作品について大公と大公妃に説明した (Raff H. 1901: 398)。

このオペラ初演の準備期間に行われていたヴァイマル宮廷劇場の重要な公演として、一つは、ヨハン・ゴットフリート・ヘルダー (Johann Gottfried von Herder, 1744-1803) の記念像の記念式典演奏会がある。舞台監督兼、俳優のエドゥアルト・ゲナースト (Eduard Franz Genast, 1797-1866) とリストの曲付け (序曲と1曲の合唱曲)<sup>18</sup>によって、1850年8月24日に、戯曲「鎖を解かれたプロメテウス Der Entfesselte Prometheus」が上演された [A10419/38/2]。二つ目は、1850年8月28日にリストの指揮によって行われたヴァーグナー作曲《ローエングリン Lohengrin》(1848) の初演である [A 10419/38/3]。

### 3.3.3. 《アルフレッド王》一度目の改訂

その後、リストは1850年11月22日付の手紙のなかで、彼自身の健康上の理由により、ラフに《アルフレッド王》の全てのリハーサルを自分で行うよう伝えた (Raff H. 1901: 505)。これを受けてラフは、1850年12月のハインリヒ宛ての手紙のなかで、《アルフレッド王》の改訂とリハーサルについて次のように書いている。

リストが10月19日に「ヴァイマルを」出発しました。その前に《アルフレッド王》上演について取り決めがなされました。私はヴァーグナーの《ローエングリン》、シューマンの《ゲノフェーファ》<sup>19</sup>、マイアベーアの《預言者》<sup>20</sup>という、今、最も重要な三つの作品を聴いた後で、《アルフレッド王》がいくらかでも私の期待に沿えるものとなるには、古いままの《アルフレッド王》を聴衆にはかっちはいけないことが分かりました。私はリブレットを作り替えました。…そして直ちに新しいスコアの制作に取りかかったのです。(Raff H. 1902: 694)。

1850年7月8日付の手紙 (本論4頁参照) のなかで、リストは《アルフレッド王》について、当世風であると述べていたが、ラフ自身、同時代人たちとその作品を意識していることが窺える。近年のタンブリッジの研究によれば、シューマンの《ゲノフェーファ》とヴァーグナーの《ローエングリン》という「ロマンティズムとナショナルリズムという新旧の様式」は、ウェーバー (C. M. v. Weber, 1786-1826) の《オイリアンテ Euryanthe》J.291 (1823年初演) がもつ、「グランド・オペラ、ロマンティック・オペラ、そしてジグシュピールの諸要素を併せ持つドイツ・オペラの新しい発展」に各々関わっているとされる (Tumbridge 2006: 11-14)。これには19世紀半ばに至るドイツ・オペラの系譜が示されており、ラフが上記にあげた作曲家の様式的特徴を含んでいる。ここから、ラフの改訂には、世紀の半ばにおける、既存の時代的、あるいは個人的様式をどのように扱うのか、という問題があったと考えられる。

### 3.3.4. ヴァイマル宮廷劇場でのオペラ公演

ヴァイマル宮廷劇場の劇場広告をみると、大公や大公妃の生誕祭にオペラ公演が行われることが多く、そのなかで新作 (またはヴァイマル初演) が行われる傾向がみられる。例えば、カール・フリードリッヒの誕生日 (2月2日) には1786年、1832年、1839年、1841年に新作オペラの公演があり、1849年の生誕祭では、フランソワ・オベール (François Auber, 1782-1871) 作曲《アイデ Haydee, oder Das Geheimniß》(1847年作曲) が上演された [A10419/36/75]。マリーア・パヴロヴナの誕生日 (2月16日) では、1833年、1834年、1850年に初演を含むオペラ公演があり、1849年の生誕祭では、ヴァーグナー作曲、《タンホイザー Tannhäuser》(1843-44年作曲) がヴァイマルで初演された [A10419/36/83]。カール・アレクサンダー<sup>21</sup>の誕生日 (6月24日) には、1835年、

1837年に新作オペラの公演があり、1856年の生誕祭では、カール・エーバーヴァイン（Karl Eberwein, 1786-1868）作曲《ファウスト Faust》が初演されている [A10419/43/164]。

《アルフレッド王》が大公妃生誕祭（1851年2月16日）に予定されたことは、このようなヴァイマル宮廷劇場におけるオペラ公演の傾向を示している。

### 3.3.5. 《アルフレッド王》初演の延期

大公妃の生誕祭に予定されていた《アルフレッド王》初演は、ローザ・アクテ<sup>22</sup>（Rosa von Milde Agthe, 1827-1906）を含む歌手たちの不調のため中止になり、代替の演奏会が開催された。この演奏会には、ヨーゼフ・ヨアヒムとベルンハルト・コスマン（Bernhard Cossmann, 1822-1910）がソリストとして出演し、リストによって器楽と声楽の計8曲が演奏された [A10419/38]。この中でラフの《第三幕のシーンとフィナーレ》が演奏されている（Schäfer 1888: 127）。

演奏会の翌日、2月17日に、リストはバート・アイルゼンに向かった。そして、2月21日付の手紙には、初演日を3月9日に延期するよう、ラフからツィーゲザールに伝えるように指示している（Raff H. 1902: 977）。

### 3.3.6. 《アルフレッド王》二度目の改訂

1851年2月25日付のラフの返信では、リストが述べる公演延期を承諾するとともに、その後の2回のリハーサルをリストに依頼している。そして、ラフはこの間に更なる改訂を行った（Raff H. 1902: 978）。

「アンダンテは今や新しくなりました。…予測されたように、私は少し [アンダンテの部分を] 拡張しなければなりません。今、その部分は76小節あり、そこで私は完全に「独創性の欠如」を表しました。私が《ローエングリン》の前奏曲をモデルにして手直ししてみせたからです。…それは7本のトランペット、10本のホルン、6本のトロンボーン、2本のチューバ、5本のファゴット等々です。…」(Raff H. 1902: 978)

この「アンダンテ」は、序曲の冒頭から76小節目までの部分に相当する。序曲は、ハ長調、4分の4拍子、アレグロ・マエストーゾである。冒頭は、第3幕第2場で歌われるアルフレッド王のアリアの旋律（譜例1参照）がチェロによって演奏される（mm.1-8）。そのフレーズは、16小節（4小節×4）のまとまりをもつ。17小節目から3度調（変ホ長調）に転調して管楽器が受け継ぐ。そして76小節以降は各幕の主要旋律が登場し、最後にトゥッティで上述の王のアリアが再び演奏される（mm.375-405）。また、オペラ全体をみると、このアリアの旋律は序曲、第3幕、そして第4幕のフィナーレに使用されており、作品全体を統合する役割をもっている。この他にも《アルフレッド王》には、従来述べられてきたラフの交響曲における書法的特徴、即ち「メンデルスゾーンやシューマンの流れと、リストの流れ」（Steinbeck 1997: 82）に共通する特徴がみられる。尚、管楽器の本数を増やす変更についてはスコア上では確認できない。



Gern folg' ich dem Befehle:  
 Das schönste meiner Lieder will ich heut'  
 Euch singen.  
 Ich sing' von einem heil'gen Namen,  
 Deß Klang mit Wonne jede Brust durchglüht:  
 Dem theuren Land, dem wir entstammen,  
 Dem Vaterlande gilt dies Weihelied.  
 Dich nennt das Kind mit frommem Lallen,  
 Der Jüngling singt begeistert deinen Preis.  
 Der Mann kann für dich stehn und fallen,  
 Im letzten Hauche segnet dich der Greis:  
 O Heimathland, o süßes Wort,  
 Blühe und klinge immerfort!  
 O schöner Hort, o Vaterland!  
 Sei stark und groß in Gottes Hand.

喜んで仰せに従います。  
 最も美しい私の歌を今日皆さんに歌います。  
 私は神聖なる御名を歌う。  
 その至福の響きは各々の心を熱くする。  
 我々の出身地である愛しい土地に、  
 祖国に捧げる歌である。  
 子どもは誠実で覚束ない口ぶりでよぶ。  
 若者は熱狂的に賛美を歌う。  
 壮年の男は祖国を代表して身を挺することができる。  
 末期に老人は祝福をささやく。  
 ああ、故郷よ、ああ甘美な言葉、  
 絶えず栄えよ、そして響け。  
 ああ、美しいところ、ああ、祖国。  
 神の手の中で強く大きくあれ。

《アルフレッド王》第3幕第2場、王のアリア第1番の歌詞（第1連の抜粋）（Logau 1851: 24）と対訳  
 Gotthold Logau, *König Alfred große heroische Oper in vier Aufzügen* (Weimar: Hof-Buchdruckerei, 1851)  
 (=Bayerische Staatsbibliothek; Münchener Digitalisierungs Zentrum Digitale Bibliothek.)より倉脇作成。

### 3. 3. 7. 《アルフレッド王》初演（1851年）

リストは、1851年3月3日の手紙の中で、初演とこれに続く三日後の公演二回をラフが指揮するように伝えた（Raff H. 1902: 979）。リストに宛てた手紙では、公演の成功ぶりが伝えられている。観客、出演者全てから祝福され、序曲は嵐のような喝采で一幕ごとに拍手があった。そして大公からは榮譽として20ルイ金貨が与えられた（Ibid.: 981-984）。

## 4. まとめ

オペラ、《アルフレッド王》の初演までの経緯（1849年～51年）は、音楽において「19世紀中頃に大きな転換が訪れた」（サムソン 1996：11）とするこの時期を証言している。初演を依頼したドレスデンの劇場が崩壊した知らせは、当時の状況をリアルに伝えている。このような中で、ヴァイマル初演が実現したことはリストによるところが大きいといえる。

《アルフレッド王》について、ラフは中道の立場であったように見受けられる。第一に、音楽面では従来から指摘される保守的な流れと進歩的な流れの両方をもつラフの書法であり、オペラにおいてもグランド・オペラやシューマンのオペラを志向する一方で、ヴァーグナー風の改訂を試みていることである。しかし、世紀半ばの作曲家であれば、多かれ少なかれ創作上の優柔不断さに悩まされたといわれ（Warrack 2001: 350）、ラフのいわば折衷的な書法は19世紀半ばの書法の一傾向を表すものと捉えられる。第二は、1815年～48年頃の三月前期（Vormärz）という時代性において、体制に逆らわない「アルフレッド王」という愛国的内容をもつリプレットの選択である。これに加えて、「アルフレッド王」自体が、ヨーロッパ大陸において様々な曲付けが行われ、受容されたことを考えるならば、ラフの《アルフレッド王》も、それらの一つとして普遍的な祖国愛の表現といえるだろう。

その後、「アルフレッド王」を題材とするオペラは、19世紀半ばを境にして過去の演目となっていき、ラフのオペラも再演されなくなっていった。しかしながらもう一度、革命期に目を向けてみると、当時は自由な表現活動が制限された状況下であり、リプレットが制限されたとしても、作曲家ごとの曲付けの変化によって人々がオペラを楽しんだとすれば、ラフの《アルフレッド王》は当時において一定の役割を果たしたといえるだろう。

This work was supported by MEXT Special Funds.

## 【註】

1. アルベルト・シェーファーの作品目録に記載の作品数による (Schäfer: 1888)。
2. これらの研究は共通して、ドイツ語圏の交響曲において1850~1860年代が「不毛な時代」と述べるダールハウスの見解 (Dahlhaus 1980: 65) を見出し語に用いて、19世紀後半の管弦楽作品の再検証を行っている。
3. Werke ohne Opuszahl (WoO)は、1888年のシェーファーの作品目録のなかで、未出版と遺作として分類されていた作品について1999年ドイツのヨアヒム・ラフ協会が56作品に対して番号を割り当てたものである。
4. ゴットホルト・ローガウ (Gotthold Logau) はペンネーム。本名はヘンリク (ハインリヒ)・グローガウ (Henrik (Heinrich) Glogau)。ノルウェーのベルゲンで裕福な商家に生まれた地理学者、経済学者。音楽、美術、文学に目覚めてシュトゥットガルトに赴いた。そこでローガウは、「バルクヴェルクBergwerk」と名付けた学問と芸術の振興のための協会を設立した (1904 *Allgemeine Deutsche Biographie*, Bd. 49, S. 397-399)。
5. リスト作曲《アンダンテ・フィナーレと行進曲Andante finale und Marsch aus der Oper König Alfred》にはピアノ独奏用 (S.421) 1853年作曲、1854年出版及び、連弾用 (S.631)、1853年 (不確定) 作曲、1871年出版がある。ラフ作曲ピアノ独奏のための《オペラ《アルフレッド王》のモティーフによるカプリースCaprice über Motive aus der Oper König Alfred》Op.65-2は1855年に作曲され、1865年にライプツィヒ、シェーベルト社からオペラ編曲の選集、《サロンのオペラOper im Salon》の一部として出版された。
6. 『アルフレッド大王伝』第52節から第56節によると、878年は、アルフレッド王率いるウェセックス軍が、グスルム率いる異教徒の軍によって占拠された王領地チップナムを、エディントンの戦いで大勝利を収めて奪還し、ウェドモアの和平条約が結ばれた年である (Asser; 小田 (訳) 1995: 94-98)。
7. 例えば、以下の作品が含まれる。《ハインリヒ・エッサーの歌劇《2人の王子》の主題による、劇的な幻想曲Fantaisie dramatique, on themes from H. Esser's Les deux princes》Op.19 (1845)、《マイアベアによる《悪魔のロベール》から有名な二つのアリアDeux airs fameux de l'opera "Robert le Diable" de G. Meyerbeer》op.28 (1846)、《C.M.v.ウェーバーによる《魔弾の射手》のモティーフによるカプリチエットCapricietto über Motive aus dem "Freischütz" von C.M.v.Weber》Op.35 (1847)、《マイアベアの《ユグノー教徒》のモティーフによる軍隊ファンタジーFantasie militaire sur des motifs de l'opéra "Les Huguenots" de Meyerbeer》op.36 (1847)。
8. "Die Oper ward zum öffentlichen musikalischen Hauptgenuß Aller, und beeinflusste zugleich die Richtung dessen, was in den Salons der neuen Gesellschaft an Musik gemacht wurde." (Raff 1854: 50)。なお、これ以降の引用の邦訳は筆者によるものである。
9. 《ローガウによる二つのリート、「別離」、「帰郷」Zwei Lieder, von Gotthold Logau. Abschied; Heimkehr》Op.48。1848年春、シュトゥットガルトにて作曲。1852年6月ライプツィヒ、ゼンフ社から出版。(Schäfer 1888: 22)
10. Hans Erismann, "Richard Wagner in Zürich", *Neue Zürcher Zeitung*, 1987, S.25
11. フェルディナント・フォン・ツィーゲザール (Ferdinand von Ziegesar, 1812-1854) は、ザクセン・ヴァイマル・アイゼナハ大公国の皇太子、カール・アレクサンダーに仕え、1847年に宮廷劇場の総監督に就いた。
12. 18世紀イギリス・バロックの作曲家であるトマス・アーネ (Thomas Augustine Arne, 1710-1778) による仮面劇《アルフレッド Masque of Alfred》(1740年作曲及び初演) は1753年にオペラ版がつくられた。その最後の場面で《ルール・ブリタニア》(「支配せよ、ブリタニア! 大海原を支配せよ!」) が歌われる。その他の作曲者は以下のとおりである。マリネッリ (1815)、ヴァインリヒ (1815頃)、マイヤー (1818)、リー (1820年代)、リッター (1820)、ドニゼッティ (1823)、ヴォルフラム (1826)、ペーマー (1827)、シュミット (1830)、ガイスラー (1831)、ノイマン (1837)、ロイリンク (1840)、ラフ (1851)、シュマン=プティ (1858)、デュガン (1860作曲) ステインフォード (1864)、キストラ (1876作曲)、ガティ (1930)、ドヴォルザーク (1938)。但書きのないカッコ内の数字は初演年である (ウォラック; ウエスト1996: 37; 415)。
13. ヴァイマルで親交を得た音楽家には、ヴァイオリニストのヨーゼフ・ヨアヒム (Joseph Joachim, 1831-1907)、トロンボーン奏者のモーリッツ・ナビヒ (Moritz Nabich, 1815-1893)、トランペット奏者のエルンスト・ザクセ (Ernst Sachse, 1808-1868)、そしてヘルデン・バリトンの名歌手であるフェーダー・フォン・ミルデ (Hans Feder von Milde, 1821-1889) がいた。ミルデは、1850年にヴァイマルで初演されたリヒャルト・ヴァーグナー (Wilhelm Richard Wagner, 1813-1883) の《ローエングリンLohengrin》(1848) 初演においてフリードリヒ・フォン・テルラムント役を好演した (Raff H. 1925: 86)。
14. シュトゥットガルト時代の友人。ハンス・フォン・ビューロー (Hans Guido von Bülow, 1830-1894) とともにラフにとって重要な存在である (Raff H. 1925: 60)。
15. マリーア・パヴロヴナ (Maria Pavlovna, 1786年2月16日-1859年6月23日) は、ザクセン=ヴァイマル=アイゼナハ大公カール・フリードリヒの妃。ロシア皇帝パーヴェル1世の三女。
16. ザクセン=ヴァイマル=アイゼナハ大公、カール・フリードリヒ (Karl Friedrich von Sachsen-Weimar-Eisenach, 1783年2月2日-1853年7月8日) (在位1828-1853年)。

17. カロリーネ・ザイン＝ヴィトゲンシュタイン＝ルートヴィヒスブルク  
(Carolyne Sayn-Wittgenstein-Ludwigsburg, 1819-1887) は、帝政ロシアのドイツ系貴族、ザイン＝ヴィトゲンシュタイン＝ルートヴィヒスブルク家の侯子ニコラウスの妻。
18. この戯曲の序曲から、交響詩《プロメテウス》S.99が1855年に発表された。
19. 《ゲノフェーファGenoveva》Op.81、全4幕。1847-1849年作曲、1850年6月25日にライプツィヒで初演。
20. 《預言者Le prophète》全5幕。1849年作曲、1849年4月16日にパリ・オペラ座で初演。
21. カール・アレクサンダー (Karl Alexander August Johann, 1818年6月24日-1901年1月5日) はカール・フリードリヒの息子。ザクセン＝ヴァイマル＝アイゼナハ大公を継承した (在位1853-1901年)。
22. ローザ・アクテは《ローエングリン》のエルザ役、コルネリウス (Peter Cornelius, 1824-1874) 作曲、《バグダッドの理髪師Der barber von Bagdad》(1858年ヴァイマル初演) のモリギアーネ役、そしてコルネリウス作曲《エル・シッドEr Cid》(1865年ヴァイマル初演) のヒメーネ役を務めた。

### 【引用・参考文献】(配列はアルファベット順、日本人はヘボン式に従う)

- ASSER; 小田, 卓爾 (訳)  
1995 『アルフレッド王伝』東京: 中央公論社.
- BAYREUTHER, Rainer  
2005 „Raff, Joachim“, FINSCHER, Ludwig (Hg.), *Die Musik Geschichte und Gegenwart*, Kassel: Bärenreiter: Personenteil 13: 1191-1199.
- DAHLHAUS, Carl (Hg.)  
1980 *Die Musik des 19. Jahrhunderts*, Laaber: Laaber Verlag.
- ERISMANN, Hans  
1987 *Richard Wagner in Zürich*, Zürich: Neue Zürcher Zeitung: 25.
- GROTJAHN, Rebecca  
1998 *Die Sinfonie im deutschen Kulturgebiet 1850 bis 1875: ein Beitrag zur Gattungs- und Institutionengeschichte*, Sinzig: Studio.
- KIRBY, Frank E.  
1995 “The Germanic symphony of the nineteenth century: Genre, form, instrumentation, expression”, *Journal of Musicological Research* 14(2): 193-221.
- MARTY, Res  
2014 *Joachim Raff. Leben und Werk*, Altendorf: MP Bildung, Beratung und Verlag.
- MÜLLER-REUTER, Theodor  
1909 *Lexicon der Deutschen Konzertliteratur*, Leipzig: C.F.Kahnt.
- RAFF, Helene  
1925 „Joachim Raff, ein Lebensbild“, Regensburg: Gustav Bosse.  
2012 英語訳 *Joachim Raff, Portrait of a life*, HOWE, Alan (Trans.), s.l.
- RAFF, Joachim  
1854 *Die Wagner Frage: kritisch beleuchtet. Erster Theil: Wagners letzte künstlerische Kundgebung in Lobengrin*, Braunschweig: Friedrich Vieweg und Sohn.
- SAMSON, Jim (ed.) サムソン, ジム (編)  
1991 *Man & Music The Late Romantic Era from The mid-19th century to World War I*, Basingstoke: Macmillan.  
1996 日本語訳『市民音楽の抬頭 後期ロマン派 I』三宅, 幸夫(監), 東京: 音楽之友社.
- SCHÄFER, Albert  
1888 *Chronologisch-systematisches Verzeichnis der Werke Joachim Raff's*, Tutzing: Hans Schneider.  
2011 英語訳 *A catalogue of the music of Joachim Raff*, THOMAS, Mark (trans.), s.l.
- STEINBECK, Wolfram  
1997 „Nationale Symphonik und die Neudeutschen: Zu Joachim Raffs Symphonie *An das Vaterland*“. *Musikgeschichte zwischen Ost- und Westeuropa: Symphonik – Musiksammlungen*, LOOS, Helmut (Hg.) Sinzig: Studio: 69-82.
- TUNBRIDGE, Laura  
2006 “Weber’s Ghost: *Euryanthe, Genoveva, Lobengrin*”, BACHT, Nikolaus(ed.) *Music, Theatre and Politics in Germany 1848 to*

*the Third Reich*, Cambridge: University of Cambridge: 9-30.

WARRACK, John

2001 *German Opera From the beginnings to Wagner*, Cambridge: University of Cambridge.

WARRACK, John ; WEST, Evan ウォラック, ジョン ; ウエスト, ユアン.

1992 *The Oxford dictionary of opera*, Oxford: Oxford University Press.

1996 日本語訳『オックスフォード オペラ大事典』大崎, 滋生 ; 西原, 稔 (監訳), 東京 : 平凡社.

WIEGANDT, Matthias

1997 *Vergessene Symphonik? Studien zu Joachim Raff, Carl Reinecke und zum Problem der Epigonalität in der Musik*, Sinzig: Studio.

#### 【記事・資料】

LOGAU, Gotthold

1851 *König Alfred große heroische Oper in vier Aufzügen*, Weimar: Hof-Buchdruckerei.

(=Bayerische Staatsbibliothek; Münchener Digitalisierungs Zentrum Digitale Bibliothek.)

<https://www.digitale-sammlungen.de/index.html?c=suchen&ab=&kl=&l=de> (2017年8月31日アクセス)

RAFF, Helene (Hg.)

1901 „Franz Liszt und Joachim Raff—Im Spiegel ihrer Briefe—“, *Die Musik*. Berlin und Leipzig: Schuster & Löffler.: 36-44, 113-123, 285-293, 387-404, 499-505.

1902 „Franz Liszt und Joachim Raff—Im Spiegel ihrer Briefe—“, *Die Musik*. Berlin und Leipzig: Schuster & Löffler.: 688-695, 861-871, 977-986.

Die historische Commission bei der Königl. Akademie der Wissenschaften. (Hg.)

1904 *Allgemeine Deutsche Biographie*. Nachträge bis 1899. Leipzig: Duncker und Humblot: 49: 397-399.

#### 【楽譜】

RAFF, Joachim

1849 *König Alfred große heroische Oper in vier Aufzügen*. [Hs.], Weimar: Franz Liszt Hochschule in Weimar. [D-WRha, DNT363]

#### 【ウェブサイト】

Digitales Archiv des Landesarchivs Thüringen. <https://archive.thulb.uni-jena.de/staatsarchive/>

(2017年8月31日アクセス)